

シグマ委員会核データ専門部会  
核データ評価W.G. 重核Sub W.G., 実験法評価  
Sub W.G. 合同会合議事録

日 時 昭和59年5月18日(金) 13時30分～17時15分  
場 所 日本原子力研究所 東京本部 第6会議室  
出席者 神田, 大沢(九大), 瑞慶覧(日立), 吉田, 川合, 村田(NAIG),  
宝珠山(MAPI), 田中, 中島, 菊池, 浅見, 中川(原研)

配布資料

HN-84-01 Fission, capture 断面積の共分散推定法(村田, 中島)  
HN-84-02  $^{232}\text{Th}$ の共鳴パラメータのJENDL-2以降のstatus(大沢)

議 事

1. 重核 Sub W.G. 前回(58年10月27日)議事録の確認
2. 共分散の推定法

配布資料(HN-84-01)にもとづいて, 村田委員が共分散の推定法を説明した。各実験値の共分散を求めるには, まず測定の部分誤差を明らかにしなければならない。当面同時評価のテストランを行なうことを目的とし, 以下の断面積に限り部分誤差の表を作成することとした。

$^{235}\text{U}(n, f)$ ,  $^{238}\text{U}(n, f)$ ,  $^{238}\text{U}(n, \tau)$ ,  $^{239}\text{Pu}(n, f)$ ,  $^{240}\text{Pu}(n, f)$   
 $^{240}\text{Pu}(n, \tau)$ ,  $^{197}\text{Au}(n, \tau)$

当面はテストを目的としているので, 調査する実験のレポートは, 各反応3～4件程度とし, できるだけ広いエネルギー範囲をカバーし, 実験手法の異なるものを選ぶ方が良い。

上記の核種の評価担当者は6月中に部分誤差の表を作り村田委員と神田委員に送ることとした。

〔今後の予定〕

6 月中 上記の部分誤差の表を作る。

7月～8月 共分散の計算

8 月末 共分散データを九大に送る。

9月～10月 九大で同時評価のテストラン

### 3. 共鳴パラメータの評価

今まで未定になっていた  $^{235}\text{U}$  と  $^{238}\text{U}$  共鳴パラメータ 評価担当者は、 $^{235}\text{U}$  が中島委員、 $^{238}\text{U}$  が中川委員ということに決定した。

各担当者が、JENDL-2 の後の実験データの様子について簡単なレビューを行った。

Multilevel パラメータの取り扱いが REPSTOR の中でできるようにすることを中川委員が検討することになった。

### 4. その他

$\bar{\nu}$  とスペクトルの評価方法については神田、松延両委員がすでにガイドラインを作ってあってある。当会合あるいは核データ研究会で二人に話していただく事にした。

### 5. 次回

7 月 12, 13 日 東海研で共分散データ作成のため関係者のみの会合を開く。

10 月末 同時評価のテストランが終了した時点で合同会合を開く。

— 以 上 —